



TITLE:

目下の恐慌及び失業

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 目下の恐慌及び失業. 経済論叢 1920, 10(6): 813-830

ISSUE DATE:

1920-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127667>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第十卷 第六號

大正九年六月一日發行

論 說

財産税の利弊……………

法學博士

神戸 正雄

鎌倉時代の家族制度(五)……………

文學博士

三浦 周行

Jan de Witt に就いて(一・完)……………

法學博士

財部 靜治

龔自珍の農宗說……………

文學士

小島 祐馬

明治の米價調節(七・完)……………

法學士

本庄榮治郎

人格主義の立場に於ける經濟と人生の一考察(一)……………

法學士

石川 興二

時事問題

目下の恐慌及び失業……………

法學博士

戸田 海市

恐慌の對策と銀行業者……………

法學士

大森 研造

雜 錄

北米合衆國に於ける農耕地……………

法學博士
農學博士

高岡 熊雄

汐見法學士に答ふ……………

法學博士

武藤 山治

經濟生活の道德化……………

法學博士

神戸 正雄

古代に於ける植民史訓……………

法學博士

山本美越乃

附錄……………

本誌第十卷總目錄……………

時事問題

目下の恐慌及び失業

戸田海市

一、恐慌の發生

昨年下半年來の我經濟界の人氣は戰爭中にも見るを得ざりし高熱點に達し、物價指數は今日の世界的水準に近しと認むべき米國の夫れに比して三割以上も高く、特に事業計畫高は四十億圓の上に出て傍觀者を驚愕せしめたるは勿論、當事者自身も私かに熱狂の甚しきに驚くの有様であつた。故に稍々冷靜なる人々は此熱狂の人氣も昨年末を以て一先つ冷却するてあらうと信じたのであるが、事實は之に反して新年に入り人氣は益突進し、従つて物價の騰貴も止まず、特に事業計畫は三月までに五億十億二十億と累進した、無論此等の計畫や取引は信用の不自然なる膨脹に由て行はれたものであるか、如何に人氣が樂觀に傾くとも、信用取引の膨脹は無限に行はれ得るものでなく、特に信用の膨脹に伴ふ所の物價騰貴は大なる輸入超過を惹起して信用の緊縮を餘儀な

くする。此輸入超過は既に昨年より現はれたのであるか、經濟界の人氣は此自然の制裁をも無視して突進したのである。故に四月に入つて俄然株式及重要諸商品の暴落と取引及生産の休止とを生したのは別段に需供の激變を生すへき外部的事情が勃發した爲めてはなく、恰も夢中に踊り狂つて居た酔狂者か力盡きて自から倒れたると同様である。既往の樂觀の強かりし丈けに今後の恐慌萎縮も強からざるを得まい。

世上多くの問題には樂觀と悲觀とが對立するを常とする。經濟上には戰爭中より兩論者が貨幣信用の膨脹か緊縮かを中心問題として論争を繼續し來つたか、予輩は再三本誌に於て漠然たる膨脹緊縮の争を爲すも水掛論に終るの結果となるから、今後の世界的標準と認むへき米國の物價指數を大體の標準として適度の緊縮を斷行するの必要を論じた。當時予輩の警告した如く、日露戰爭後國民的破産狀態に陥つても尙は必要の緊縮を斷行するの勇氣なく、種々の困難不利を忍びつつ外債に次ぐに外債を以てして一日の安を偷まんとしたるか如き健實性の缺けたる我國民か、歐洲戰爭の起れる爲め偶然にも過去の不自然なる膨脹に付て當然の制裁を免れたのみならず、非常の戰時利益を得て巨額の在外正貨を有するに至つたことは、實に危險なる重大の誘惑であつた。戰爭中の經濟界の變調に由り、健實を旨とした者は假令へ損失を蒙らざるも利益すること少なく所謂戰時利益者の大部分は常識を逸したる大膽の冒險者であつた爲め、一般經濟界の人氣が益不

健實となり、本來實物を運轉して確實に口錢を收むることを業とすへき一般の卸賣商人の取引も先物の轉々賣買に由て差益を得ることを主とし、之か爲め取引所仲買人の營業と多くの差別を見ざるまでに至つた。此の如き社會に於ては富めりと云ひ貧しと云ふも、眞面目に努力したりや否とは多くの關係がないこととなり、従つて私有財産制度に對する世人の信用が當然衰退せざるを得ない。

不自然なる信用膨脹の結果として生じたる今日の恐慌の責任者として、金融業者と之を監督する政府とか最も多く批難を受けつゝあるは當然であるか、併し政府と云ひ金融業者と云ふも國民一般と異なる別種の人物に由て構成せられて居るのではない、従つて之に對し特別の能力を發揮することを望むは困難である。只た物價騰貴に由て最も苦痛を蒙むる所の役員労働者階級か、歐米に於けるか如く社會的勢力として重きを爲すときは、健實なる緊縮策の實行か幾分か容易である併し此等の階級者も自己の増給運動に主力を注ぎ、物價調節に對する努力か之に及ばざるを常とする。故に企業者は此等階級者の増給運動の一部を認容すると同時に、之に由て生じたる生産費増加を理由として更に物價引上の運動に熱中することとなる。熱狂時代に於て多くの人々は此の如き物價引上の理由も信用を擴張する當然の根據となるものゝ如く信じて互に取引を爲すものである。尙ほ歐米に於ては社會運動の強烈となるに従つて有産者の不安か次第に高まりつゝある

か、此不安は聽て彼等をして健實なる生産に従事するよりも投機取引の捷徑に由て成功せんとするの傾を生せしめ、從つて信用の過度の膨脹を生じて物價の騰貴を甚しからしめる傾向も見へる。是れ一面に私有財産制度の信用を失墜せしめて社會運動を益強烈ならしむる所以である。我國に於て此種の原因より來る投機は未だ意識的には發生して居ないであらうか、併し勞働運動の盛んとなることか自然有産者をして成功を急かしむるに至るは避け難いことである。

今日の恐慌は無謀なる信用の膨脹の反動であるから、金融的恐慌と稱するものであり、從つて金融業の失策に對する批難が多く起るのであるか、其批難の點は貸出を適度に制限せず、特に金利を充分に引上げて之を制限しなかつたと云ふことの外、更に銀行業者が預金協定に由り金融市場の實際の關係より見て不自然に預金利子を低くし、以て目前の利銷を多く利せんとしたと云ふことも批難せられて居る。予輩は茲に經濟界の各方面の既往の功罪を算へんとするのはないか、預金協定は今後の金融政策に對しても重要な意義を有するから、之に付て一言せねばならぬ。何れの營業に於ても自殺的競争の行はるゝことは獨り營業者の不利なるのみならず、社會一般にも不利である。銀行業に於ても預金吸收の競争が過度に陥り、之が爲め其資金を投機的なる危險の用途に投下して高利を收むるの已むを得ざるに至るか如き場合には、預金協定を行ふて不當の競争を防ぐことは決して批難するを得ない。併し乍ら戦争以來の我國に於けるか如く物價が暴騰して

停止する所を知らざるか如き時代に、貨幣所有者たる預金者は購買力の大きな貨幣を貸與へて後日預金引出の際には其購買力の減少したる貨幣を返さるゝの損失が頗る大であり、一面に之を借受けたる銀行と商工業者とは不當の利益を得ることとなる。是れ實に物價騰貴が商工業を好景氣ならしむる重大原因であるか、利益分配を公平にする爲めにも此の如き場合には相當に預金利子を引上げねはならぬ。然るに若し銀行が協定を行ふて實際の需供關係よりも著しく預金利子を低くするときは、一般預金者は其資金を専門家たる銀行に託して健實安固に運用せしむるよりも、寧ろ自から之を起業や取引に投下して物價騰貴より生ずる損失を免れんとするに至るは當然である。昨年末の事業計畫及投機取引の熱狂的に昂進したる一原因は實に協定の預金利子が不公平に低かつたことである。預金協定を爲すこと自身が不當なのではなく、協定利率を不公平に低くしたることか失策である。

二、經濟界の前途

恐慌は人氣が樂觀より過度の悲觀に急轉し、人々自から信ぜさると同時に他人をも信用せず、従ふて經濟界の運行に缺くへからざる信用取引の極度に收縮するの狀態を云ふのである。故に恐慌が起れば平素主に信用取引の力に由て維持せられた物價は急激に下落する。此場合には殆んど

總ての商品が供給者の希望する價格を以て需用を見出すを得ないから、一般的供給過剰が起つたと稱せられ、人心動搖の最中には諸商品の標準價格が立ち難い。人心が靜平に歸して諸商品の價格が夫れ々々安定するに至れば、供給の適度を得たものと過剰又は不足のものとか自から明かなり、景氣の恢復は無論供給の不足及適度のものより初まる。人心動搖中は各商品の價格が如何なる點に落付くへきやに付て確信が立たぬ爲め、生産者は生産を控へ、商人は仕入れを控へ、資本財たる工場機械原料等は空しく活動を休止し、勞働者も徒らに失業に苦しまねはならぬのである。恐慌の際には生産の繼續が不能となる場合もあり、又生産休止が供給過剰の恐怖を除て人心の安定を速かならしむるに有効の場合もあるか、併し世人一般が狼狽して徒らに其生産を休止することは即ち世人一般の購買力を減少せしめるものであるから、景氣の恢復が益困難となる。故に恐慌の起つた際には銀行も商工業者も重要商品の中で眞に生産過剰となれるものと然らざるものとの區別を明かにし、且つ諸商品が幾何の下落を爲せば安定點に達すへきやに付ても大體の見込を立つることか何よりも必要とする。此見込が立てば信用も自から恢復し、從つて資本が活動を初め又勞働者が失業を免れる時期も早まる故に此見込を立つるに付て此際注意すべき重要な事實を述べる。

戰爭中の好景氣は輸出の激増が原因であつたが、戰後の我物價は諸外國の上に出て、而も我が

貨幣は英佛貨幣の如く別段に國際的價值を減しない爲め輸入超過を生ずるに至つた。昨年の輸出は尙ほ相當に増加して居るか、此増加は主に價格騰貴の爲めの金額の増加であつて輸出の數量は大體に減少して居る。故に昨年來の好景氣は全く國內市場を相手として起つたものであつて、生絲以外の輸出事業は概ね幾分の縮小を爲し、決して生産過剰に陥つて居らぬ。従つて我國の物價が下落して世界の平均に近づくに従ひ輸出事業が當然恢復する、既に述べし如く今日は米國の物價指數を以て世界的水準に近きものと認むべきであるか、我國の指數は米國の夫れに對し三割餘の騰貴を示して居る。故に我物價が此程度の下落を爲せば、輸出事業が昨年よりも一層活潑となつて一般經濟的の恢復を助ける。此點に付て注意すべきは從來各國の好景氣不景氣は世界共通に現はれることを常とした。故に不景氣に由て一國の物價が下落する時は、恰も諸外國の物價も不景氣の爲めに下落する時であるから、一國が輸出を増進することに由て景氣の恢復を爲すことが出来なかつた。然るに戦争以來世界の經濟上の交通が擾亂せられ、各國の景氣不景氣が必しも緊密なる因果關係を保つて同時に現はれない。我か昨年來の熱狂的景氣が全く國內市場を相手とする我國特有のものであつたと同時に、今回の恐慌も亦我國特有であつて諸外國には別段の變化が起らない。故に我國が不景氣となつて物價が下れば輸出の振興は豫期せられる。只た米國の經濟界は略は我國と同様に戦後の好景氣が稍や極端に走つて幾分か人心の動搖を生じて居るやうであ

る。若し米國にして我國と同時に不景氣となるときは、種々の點より我經濟界の恢復を困難ならしめるであらうか、特に米國の不景氣が我が生絲の輸出を減少せしむるの危険なきやは世人の最も注意しつゝある問題である。

國民一般の富の程度が高きときは、景氣不景氣に由て日用品の需用に著しき増減を來さゝることは、夙に米國に於て經驗せられた所である。戰爭中世界市場に於て毛織物綿織物の早くより暴騰したるに反し、我が生絲は久しく低位を保ち、從つて絹織物は最も騰貴歩合の少なき織物となつた。然るに米國に於ては戰時の好景氣に由り早くより下層民の收入が大に増加し、特に婦人労働者の收入が米國の參戰以來著しく増加し、之が爲め絹の消費が下層にまで普及し、今日絹は米國民に取つて最早や重要な日用品となつた。加ふるに禁酒法の厲行に由り、從來酒の爲めに浪費せられたる莫大の金額が節約せられ、其の少なからざる部分か衣類就中絹物の購買に向けられつゝある。故に我生絲の相場が昨年末の如く諸物價と驅け離れて奔騰せずして、今や下落しつゝある一般物價と歩調を保つ限りは、米國の經濟界に多少の波瀾が起つても其の生絲に對する需用は別段に減退しないであらう。支那の生絲の產額増加と其品質改良とは大に米人の希望する所であるが、此事たる短年月の間に實現せらるべきものでなく、又歐洲南方の生絲生産の恢復も頗る困難であるから、我生絲が近き將來に外國競争の爲めに脅かさるゝ危険もない。故に今後生絲相

場か諸物價の下落以上に暴落するとは考へられない。然るに生絲の下落か此程度に止まるものとするは生絲の生産も收支相償ふこととなり、従つて之か生産に従事せる多數者の購買力も特別の減退を示すことはない。

我が經濟界の前途を察するに付て今一つ注意すべき重大の事柄は米價の騰落である。昨年來の好景氣は國內市場の購買力を目的として起つたものであるか、此購買力は主として米價の騰貴に原因する。大規模に經營せらるゝ一般工業の生産物が騰貴した場合には、其利益の大なる部分か少數資本家の収入となるから、直接に日用品の購買を増加するものではないか、農業は我が人口の過半か自作小作と云へる小企業に由て經營する所であるから、米價の騰貴は略は勞銀俸給の増加と同じく直ちに日用品購買力の増加となつて現はれる。是れ米價の騰貴か他の主要商品の騰貴と異つて著しく國內市場の購買力の直接増加を來たす所以である。然らば米價の前途如何と云ふに固より諸物價の下落と調和して幾分の下落を生ずることは當然であるか、併し近き將來に米價か諸物價以下に崩落し、之か爲めに國內市場の購買力が激減するか如きことは想像せられない。目下の米の供給は相當に豊富であるか決して過剰と稱する程には存在しない。朝鮮臺灣の米も内地の下落に連れて幾分の下落を生ずるであらうか、決して其下落の爲め多量に内地市場に投出される程度の供給は存在せず、特に朝鮮の供給は例年の如く豊かでない。又世界的に食物の缺乏せる

結果として、外米が近き將來低廉に輸入せられる見込もなく、従つて本年の我が米作が假りに昨年の如き大豊作となつても、米の供給に過剰を生ずることなく、只た其不足を免れ得るに過ぎない。一方に農民一般の財力が非常に強まつて居るから、米を投賣するの必要がなく、依然として強硬の取引態度を保つことが出来る。農民が昨年末より株式投機に關係して損失を招いたことは事實であるか、併し是は農民の小部分に止まるのみならず、農民の株式投資は一般に商工業者の夫れと異り、他より資金を借入れて投資することは少なく、通例は餘裕の資力を投下するに止まるのである。故に農民の投機失敗の結果として米價の崩落を生ずるか如き多量の米の投賣が現はれるとは考へられない。此の如く米價が諸商品以下に崩落することなく、従つて農民の購買力の比較的に強き從來の關係が持續するものとすれば、諸商品の下落の甚しからざるに先ちて農民の購買力が現はれ來り、以て物價を安定せしむるものと見ねはならぬ。

從來の好景氣か國內需用就中農民の需用を相手として起つたものであることは上述の如くてあるか、其の需用の最大なるものは織物である。是れ昨年來の景氣の中心か内地向きの織物業に存し、其原料たる綿絲生絲就中前者が輸出不引合となるか如く騰貴した所以である。今後農民の購買力か他の階級者以上に激減するの危険なきは上述の如しとしても、若し内地向き織物か過大の生産擴張を行ふて居たものとすれば、織物の崩落が頗る大となる。又景氣の中心を爲したる織

物業の恢復が困難であるとするは、假令へ一面に輸出の増加が現はれても、尙ほ一般の景氣の恢復が頗る困難とならざるを得ない。元來織物類は食物と同じく世界的に缺乏して高價を維持しつつあるか、我國の生活慣習は世界諸國と甚しく異つた特有のものであり、従つて内地向きの織物は大に下落しても之を輸出に向けることが困難である。故に其生産が過剰となつて居れば大なる打撃を蒙らねはならぬ、只た内地向き織物が過剰を呈するとしても、其は夏物に限られたことであつて、將に着手せられんとして、あつた冬物の生産は殆んど休止せられて居る。冬物は固より夏物に比して更に重要なものであるか、目下の休止に由て其生産過剰を生ずる危險はなく、又織物業の一部は物價下落に伴ふ所の輸出の恢復に應じて輸出向きの生産に轉することも出来る。故に織物業の過度の膨脹に由て我經濟界の恢復が多少の障礙を受くることありとするも、其の程度は左まで甚しきものとは考へられない。

三、失 業

内地向き織物の重要産地は殆んど擧つて休業し、労働者に對しては臨時の手當を與へて前途を觀望しつつある。如何に前途の見込か立ち難しとて、將に着手すべき冬物の製織を全然休止するを得ざるは勿論であるから、是れより次第に部分的操業が初まるてあらうか、併し内地向き織物

の生産取引に關係の諸事業が最も突進的に膨脹した爲め、恐慌に襲はるゝ程度も最も強く、従つて相當の失業者を生ずることを免れないであらう。只た西陣の如き専門の熟練職工に由て高價品を生産する地方を除き、他の一般織物業は諸地方に散在し、其従業者の多くは農業の副業として生産に従事する者であるから、織物に失業するも農業に轉することか容易である。又織物業の労働者の大多數は女子であるから、獨立に一家を立て一身を支ふるの必要ある者は割合に少なく、其多數は父兄の下に一家の副収入を得つゝある者である。此點より見るも今日までの織物業に於ける失業問題の解決は左まで困難でない。

目下恐慌の中心は内地向き織物業であるか、併し一般の金融及商取引の梗塞の結果、織物業以外にも幾分の失業を生ずることを免れぬであらう。若しも一般實業界の前途に關する見込が久しく定まらず、従つて金融及商取引の梗塞が久しく繼續するならば、汎く諸事業の生産收縮や破産に由る工場閉鎖が起つて多數の失業者を出たことゝなるかも知れぬ。故に此際失業問題解決の根本方針を速かに確立して萬一に備へねはならぬ。勞働市場の實況の調査と勞働紹介事業の完備とは平時に於ても必要であり、又勿論今回の失業問題解決の手段として缺くへからざるものであるか、此等の手段を今日の實際に應じて適切に運用する所の根本方針を立つることか目下の急務である。卑見に由れば今後の失業問題解決の方針としては第一に失業者をして歸農せしむること

てあり、第二に歸農の方針を適用し得ざる者に對しては國家自治體の事業の恢復擴張に由り直接間接に就職口を増加することである。失業中の内には直接に公營事業に適當せぬ者も少なくないであらうか、公營事業の労働者收容數が増加すれば、夫れ丈け一般労働市場に空位を生ずるから各失業者は其中より汎く選擇して何れかの方面に活路を發見することか出来る。

先づ失業者にして事情の許るす限り之を歸農せしむる第一の方針に付て見るに、元來失業處分は一方に各失業者の能力境遇に最も適當せる職業を得せしめることが必要であり、他方には一國に於て最も労働を持續的に強く需用し、從つて其従業者の目前の収入は必しも多からずとも、結局は有利の地位となり得へき事業に就業せしむることを必要とする。今後織物以外の産業にも多くの失業者を生ずることありとすれば、其失業者の大部分は農業に適する者であり、同時に我農業は今後最も強く労働を需用する事業であるから、失業處分の方針として歸農を第一とせねはならぬ。從來の經驗に由るも不景氣の爲め最先に失業する者は何れの事業に於ても不熟練労働者であつて、工場主は熟練労働者の離散を防ぐ爲めには相當の損失を忍びても雇傭關係を持續せんとするを常とする。而して不熟練労働者は其労働力より見ても農業に適する者多きのみならず、戰爭以來の工業の急激の膨脹は多數の農民の子弟を都會に吸収し、之を工場の不熟練労働者たらしめた。此等の労働者は農業を離れ郷里を去つてより未だ多くの時日を經過せず、從つて未だ都會

に一家を構へて妻子の繋累を有せざる者が多く、都會より再び地方に移ることも容易である。

歐米に於ては我國に見るか如き家族的結合が存在せず、青年にして一旦父母の家庭を去つて獨立した者は失業其他の事情より再び父母の家庭に歸ることが困難である。又歐米に於ては通例田舎の下層民は勞働者として農業者に雇用せらるゝ者であつて、我國の如く田舎の下層民が自作又は小作と云へる自家經營の事業を有しない。故に歐米にては都會に失業して田舎に歸るも、更に農業家か之を雇入るゝにあらされは就業するを得ない。然るに農業家は特に其收益の大なる時にあらされは臨時に勞働者の雇入れを増加しないから失業の處分に付て歸農を第一に置くことが出來ない然るに我國に於ては都會に出て、失業せる下層民の子弟が歸郷することも容易であり、特に下層農民も各自に自家經營の農業を有すから其子弟が歸郷すれば損益の計算を度外に置いて之を自家の農業に收容することが出来るのである。

更に目下の農業に於ける勞働の需用の方面を見るに、既に述べし如く米價も諸物價の下落に連れて相當に下落することは免れぬとしても、特に農業を商工業に比して不利ならしむるか如き危険はなく、寧ろ農業は近き將來に於ては有利の地位に立つべきものである。世界的食物不足は近き將來に於て容易に救済の見込は立たぬ。故に假令へ今後は戰爭中に於けるか如く我國より澱粉豆類等の農産物を多量に輸出するに至らずとも、外國の穀類就中外米が多量に輸入せられる見

返かない。然るに我國の飯米は朝鮮臺灣より豫期の輸入があつても尙ほ幾分の外米輸入なくては到底諸商品に對する米價の比較的強調を緩和することか出來ない。予輩の憂ふる所は今後米價の暴落及田舎の不景氣よりも、寧ろ諸物價の下落に比して米價の高きに過くることである。故に飯米調節策としても我國は此際大に農産の増加を奨励するの必要に迫られて居る。此點より見れば今後の失業處置として之を歸農せしむることか、他の方法よりも多くの手數と費用とを要するとしても、尙ほ歸農を第一とすることが必要であり、同時に失業者に取つても結局は有利である。

我國の經濟は今後大に工業の方面に發展すべきものであるか、併し戰爭以來の工業の膨脹は餘りに急激であつて、歐米の經濟の恢復するに従ひ我工業が幾分の收縮を必要とする場合が少なくない。特に戰爭中の工業膨脹が急激であつた爲め、工場機械等の生産設備を完全にするの暇もなく、又外國より機械建築材料等の輸入の困難であつた爲めに其設備は甚た不充分となり、之を補足する爲めに多大の労働者を使用したのであるか、今後の工業は大に其設備を完全にして成るべく労働を省略せんとするの傾向がある。特に勞銀が騰貴し且つ困難なる労働問題の頻發しつゝある今後に於ては、一般工場主の労働省略の努力が大に強まらざるを得ない。戦前は資本が高く労働の安き時代であつたか、今日は最早や事情が一變して居る。故に幸にして今後織物業以外の諸工業が汎く生産縮少を行ふの必要に迫られずとするも、工業労働就中不熟練労働は幾分の過剰を

生するを免れないであらう。是れ亦失業の處分上歸農に重きを置くべき所以である。只た一般工場主の目前の利害より云へば、都會に於て常に相當の工業労働者の失業の存在することか勞銀の騰貴を抑へ、其他一般に勞働運動の強硬となることを防ぐの力あるのみならず、急に生産擴張の必要の起つた際にも便利である。故に或は工場主の中には此際失業者歸農の方針に同意することに躊躇し、特に別段の費用手数を忍びてまでも此方針の實行に努力する者は少なくてあらう。又失業者自身も一旦都會に出て上は再び田舎に歸るを欲しないことを常とする。併し上述の如く我國の食物調節上より見ても、又失業者自身の眞正の利益より見ても歸農は最も適當の方針である。加之都會に於て常に失業者の存在するか如き状態は、マルクスの謂ふ如く貧民豫備軍の存在することであつて、目前勞働運動の強硬となることを幾分か防止し得るとしても、永久には労働者階級の思想を險惡ならしむる大原因となるのである。

失業處分の方針として歸農に次ぎ今日の我國に重要のものは公營事業に失業者を收容することである。一般經濟界の不景氣となつた場合には如何に労働紹介事業を完全に行ふも尙ほ労働の過剩を全然防止するを得ない。先進國に於ては労働組合の失業救済の事業や公營の失業保險の制度が存在して或程度まで失業者の生活を支へることゝなつて居るか、此の如き制度の存在せざる我國に於ては、歸農に由て處分するを得ざるを公營事業の恢復擴張に由て處分することか最も

適當である。失業發生の初期に於ては雇主をして臨時の手當を爲さしむることも出來ないではないか、不景氣が永く續けば此方法も効果を生しない。特に我國には今尙ほ小規模の工業が多く、従つて雇主の多くは不景氣の際に勞働者を養ふの能力を有しない。歐洲に於ては失業の多く發生した時には自然に海外移住が増加する傾があるか、而も之に由て國內の勞働過剩を防ぐの効力は極めて微々たるものである。汎く有色人排斥の行はるゝ今日に於て我國民の移住の途の開けて居るのは南米就中ブラジルである。只其移住者は農業勞働者たることを必要とするか、此種の失業者の多數は歸農に由て處分し得る者である。故に今日我國に多數失業者が發生したならば、公營事業に之を收容することが必要である。

國家自治體の事業は營利本位でないから、不景氣の爲め諸事業の不引合となれる場合に於ても之を擴張することか出來る。好景氣の際には公債募集が困難であり、材料も勞働も民業の爲めに高價に吸收せられる。故に好景氣の際に公營事業が強て民業と競争して市場より資本勞働を引上ぐることは、全般的に見て不利なるに反し、不景氣が續けば資本も勞働と共に過剩を生ずる。故に失業問題を離れて一般に國民經濟上より考へても、公營事業と民業とは出來得る限り交互に伸縮して常に一國の資本勞働を平均に活用することを要するのであるか、特に多數の失業の發生した場合に於て急速に事業を擴張して之を收容するものは公營事業の外にはない。幸に我國は鐵道、

郵便、電信、電話、專賣事業、海陸軍需工業等の亘多の官營事業の存在する外に、都市の電鐵其他の公營事業も少なくないから、必要に應じて相當に多數の勞働者を收容することか出来る。現に戰爭以來の好景氣の爲め公營事業は一般に勞働者の不足を生し、又材料に缺乏して事業の進行が甚だ澁滞して居る。教育警察等の下級行政の方面にも大なる人員不足を生して居る。故に此際特別の事業擴張を行はすとも相當に失業收容能力を有する、尙ほ失業處分を行ふには勞働需用の人員、種類、場所、時期等を全國に亘つて明かにすることを要するか、勞働市場の調査及勞働紹介事業の幼稚なる今日に於ても、公營事業に於ける此等の調査は困難でない。此點も亦失業處分の方針として公營事業の失業者收容の方針を重要視すべき理由の一つである。